

大学入試
実戦国語
漢文・文章

見本

漢文

文章

基礎問題

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(追手門学院大・文)

1

余幼時即嗜學。家貧無從致書。不敢稍逾約。以是群書。以觀。每假借于藏書之家。手自筆錄。計日以還。天大寒。硯水堅。手指不可屈伸。弗之怠。錄畢。走送之。

(A) 致書 (B) 致書 (C) 送之 (D) 送之

解答・解説 ↓ 別冊176ページ

(宋濂「送東陽馬生序」)

問一 傍線部(A)の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

イ 手紙を送る ロ 書道を学ぶ ハ 書物を買う

二 書画を求める ホ 読書を好む

問二 傍線部(B)を平仮名ばかりで書き下し文にせよ。

問三 傍線部(C)の「送之」とは、何をどうしたというのか。具体的に述べよ。

問四 傍線部(D)を口語に訳せ。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(清泉女子大)



古之(1)學者必^ズ有^リ師。師者所以^ニ傳^ヘ道^ヲ也。授^ケ業^ヲ解^ク惑^{モトヒテ}也。(2)人非生而知之者。孰^{ナレカ}能^ユ無^ク感^{ヒテ}惑^{ヒテ}而不^レ從^ハ師^ニ其^ノ為^ル惑^{モトヒテ}也。終^{ツヒニ}不^レ解^ケ矣。生^ニ乎吾前^ニ其聞^ク道^ヲ也。固^{モトヨリ}先^{ナラバ}乎(3)庸^{ナラバ}知^{ラシ}其年^ノ之先^ニ後^ニ生^{ナルヲ}於^テ吾^{ヨリ}乎。

解答・解説▽別冊177ページ

問一 傍線部(1)「學者」の意味は次のどれが正しいか。記号で答えよ。

- イ 学問
- ロ 学問のある者
- ハ 学問に志す者
- ニ 学問を教える者

問二 傍線部(2)「人非生而知之者」の読み方は次のどれが正しいか。記号で答えよ。

- イ 人にあらずして生まれて之を知るは
- ロ 人にあらずれば生まれて之を知る者は
- ハ 人生まるるにあらずんば之を知らず
- ニ 人生まれて之を知るにあらずば
- ホ 人生まれながらにして之を知る者にあらず

問三 傍線部(3)「庸知其年之先後生於吾乎」を現代語に訳せ。「先後生」は、先に生まれたか後に生まれたかということ。()

標準問題

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(学習院大・文)



都^ち太^た傅^ふ 在^り 京^{きやう} 口^{くち}。 a 遣^は 門^{もん} 生^{せい} 与^よ 王^{わう} 丞^{じやう} 相^{さう} 郎^{らう}、 在^り 東^{とう} 牀^{じやう} 上^{じやう} 一^{いつ} 坦^{たん} 腹^{ふく} 臥^{ふし}。 c 如^{ごと} 不^ふ 聞^{もん}。 都^ち 公^{こう} 書^{しよ} 一^{いつ} 求^{もと} ニ 女^{にょ} 婚^{こん}。 丞^{じやう} 相^{さう} 語^ご ニ 都^ち * 信^{しん}、「君^{きみ} 往^き ニ 東^{とう} 廂^{しやう}、 任^{にん} レ 意^い 選^{せん} レ 之^の。」 門^{もん} 生^{せい} 婦^ふ、 白^{しやく} レ 都^ち 曰^{いは}、「王^{わう} 家^か、 諸^{しよ} 郎^{らう}、 亦^{また} 与^よ 焉^ん。 * 信^{しん} 使^し 逸^{いつ} 少^{せう} 因^{いん} 嫁^け 女^{にょ} 皆^{みな} 可^か レ 嘉^か、 聞^{もん} ニ 来^{きた} 覓^{もと} 婚^{こん}、 咸^{みな} 自^{みづか} 矜^{じん} 持^ぢ。 唯^{ただ} 有^あ ニ 一^{いつ}。 * 信^{しん} 使^し 逸^{いつ} 少^{せう} 王^{わう} 義^ぎ 之^の。 東^{とう} 晋^{しん} の 人^{ひと}。 書^{しよ} 家^か と して 名^な 高^{たか} 。

(世説新語)

問一 傍線部 a 「遣門生与王丞相郎」を、例にならって、読み下し文にせよ。歴史的仮名遣いでも現代仮名遣いでよいが、仮名は平仮名を用いること。(例) 都太傅在京口 → 都太傅京口に在り

問二 傍線部 c 「如不聞」と字を入れ替えた「不如聞」とでは、読み方が異なる。それぞれの読み方を、すべて平仮名で記せ。

c 如不聞 c 不如聞

問三 傍線部 d 「乃」の読み方を平仮名で記せ。歴史的仮名遣いでも現代仮名遣いでもよい。

問四 傍線部 b 「自矜持」の意味として、最も適当なものを次のイ〜ニの中から選んで、記号で答えよ。

- イ 自分のたのむところがある。 口 自然に恥ずかしそうにする。
- ハ 意識して取りすましている。 ニ 何となく人を見くだす態度をとる。

問五 この文は、どのようなことを述べているか。最も適切なものを次のイ〜ホの中から選んで、記号で答えよ。

- イ 兄弟の中で、悠然として動じない男が、婚に選ばれた。
- ロ 娘は、床の上で淋しそうにしていた男と結婚した。
- ハ 王家の婚には、とくに高いプライドが必要である。
- ニ 東側の床に寝ている青年が将来婚になると、娘が予言されたとおりになった。
- ホ 一人が、婚選びの使いの男に気に入られて、うまく婚となった。

解答・解説は別冊178ページ



次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(東京大)

*司徒北平王家猫有_二生_レ子_一同_レ日_一者_一其_一死_ス焉_一有_二子_一飲_ニ於_レ死_母母_一且_レ死_セ其_一鳴_ク呻_イ呻_イ其_一方_一乳_ス其_一子_一若_レ聞_ク之_一起_チ而_レ若_ク聽_レ之_一走_リ而_レ若_ク救_フ之_一其_一置_ク于_レ其_一棲_一又_レ往_キ如_レ之_一反_リ而_レ乳_ス之_一若_ク其_一子_一然_リ噫_ハ亦_レ異_{ナル}之_一大_{ナル}者_一也_一夫_レ猫_ハ

人畜也。非_{ザル}性_ニ於_レ仁_義者_一也_一其_一感_ニ於_レ所_一畜_者乎_一哉_一北平王牧_人人以_レ康_伐罪_以平_理陰_陽以_レ得_其宜_一 (韓昌黎文集)

*司徒北平王||中唐の宰相馬燧(ばすい)。七二六―七九五。 呻 擬声語、猫の泣き声。

問一 「其一」という語が、傍線部 a・b・c の三箇所あるが、それぞれ何をさしているか。

問二 傍線部「又往如之」とはどういうことか。具体的に説明せよ。

問三 傍線部「乳之若其子然」を、平易な現代語に訳せ。

問四 傍線部「異之大者」とはどういうことか。簡潔に説明せよ。

問五 傍線部「其感於所畜者乎哉」を、平易な現代語に訳せ。

解答・解説 ↓ 別冊179ページ



次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(設問の都合で送り仮名を省いたところがある。)(九州大)

解答・解説 ↓ 別冊180ページ

仁宗 在^ル東宮^ニ *魯公宗道 爲^ル *諭徳^ト 去^ル

其^ノ居 在^リ宋門外^ニ 俗^ニ謂^フ浴堂巷^ト 有^リ *酒 眞宗 (e) 果^ク問^フ使者^ニ (f) 具^ク如^ク公^ノ對^シ眞宗 問^ヒ

肆[、]在^ニ其側^ニ 號^シ仁和酒^ト 有^リ名^ニ於京師^ニ 公 曰^{ハク}何^ノ故^ニ (g) 私^ニ入^ル酒家^ニ 公 謝^シ曰^{ハク}臣^ガ家貧^{シクシテ}

(a) 往^ル往^ル 易^ヘ服^ヲ (b) 微^シ行^シ 飲^ム於^ニ其^ノ中^ニ 無^シ器^皿 酒肆^ハ百物具備^シ (5) 賓^ニ至^リ如^ク歸^ル (h) 適

(c) 一^ニ日眞宗急^ニ召^シ公^ヲ (1) 將^レ有^レ所^レ問^ル 使者 有^リ郷里^ノ親客^ニ 自^リ遠^キ來^ル與^レ之^ト 飲^ム 然^レ也 且^ニ 既^ニ易^ヘ服^ヲ 市人^モ亦^ク無^シ識^ル臣^ヲ 者^ニ 眞宗笑^ヒ曰^{ハク}

及^レ門^ニ 而公不^ラ在^ラ (d) 移^レ時^ヲ 乃^チ自^リ仁^和肆^中 卿^ハ爲^ニ宮臣^ニ (6) 恐^ル爲^ニ *御史^ト 所^レ彈^ム 然^レ自^リ此

飲^ミ歸^ル *中使遽^ニ先^ツ入^リ 白^ク乃^チ與^レ公^ノ約^シ 曰^{ハク} 奇^レ公^ヲ 以^テ爲^ス忠實^ニ 可^シ大^ニ用^フ (歐陽脩「歸田錄」)

上^ニ若^シ怪^シ公^ノ來^ル 遲^ク (2) 當^レ下^シ託^ス何^ノ事^ニ 以^テ對^シ 幸^ニ先^ツ 宗(第三代皇帝)と仁宗(第四代皇帝)とにつかえた。 諭徳

見^レ教^ヘ (3) 冀^{ハク}不^ニ異^ル 同^ク 公^曰但^メ以^テ實^ヲ告^グ 中 東宮の侍從官。 酒肆 || 酒家。 中使 || おもてむきでない天子の

使^曰然^レ則^チ當^レ得^レ罪^ヲ 公^曰飲^ム酒^ヲ 人^ノ之^ノ常 情^{ナリ} 欺^ク君^ヲ 臣^子之^ノ大^ニ罪^ト 也^ト 中使嗟^シ歎^シ 而

問一 傍線部(a)・(b)・(c)・(d)の意味を簡単に記せ。

問二 傍線部(1)・(6)を書き下し文に改めよ。

問三 傍線部(2)・(4)を解釈せよ。

問四 傍線部(3)は誰がどうすることをのぞんだのか、分かりやすく説明せよ。

問五 傍線部(e)・(f)・(g)・(h)の読み方を送り仮名も含めて全部平仮名で記せ。

問六 傍線部(5)の解釈として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

イ 客はそこに到着すると、すぐに自分の家に帰りたいと思う。

ロ 客はそこに到着すると、自分の家に帰ったように思う。

ハ 客はそこに到着すると、二度と自分の家に帰りたいとは思わない。

ニ 客はそこに到着すると、自分の家に帰ったようには思わない。

問七 作者の歐陽脩は唐宋八大家の一人である。他の七人のうち唐代と宋代とからそれぞれ二人ずつを選び、その姓名を漢字で記せ。

問八 本文の要旨を四十字以内で記せ。(句読点も一字に数える。)



次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合上、一部訓点を省いたところがある。(二部改変) (東北大)

発展問題

雲花寺有_二聖畫殿、長安中謂_二之_一七聖畫。初殿宇既製、寺僧求_二畫工_一。將命_二施_一彩飾、繪、責_二其_一值、不_レ合_二寺僧_一所酬、亦竟去。後數日、有_二少年_一詣_二寺_一來、謁曰、「某善畫者也。今聞_二此寺_一將命_二畫工_一、某不_レ敢_二利_一其值、願_レ輸_二工_一可乎。」寺僧欲_二先_一閱_二其_一筆、少年曰、「某兄弟凡七人、(a)未嘗畫_二於_一長安諸寺、寧有_レ蹟乎。」僧以_レ爲_レ妄、稍難_レ之。少年曰、「某既不_レ納_二師_一之值、苟(イ)不_レ可_二師_一意、即命_二其_一壁、未_レ爲_レ晚也。」寺僧(ウ)利_二其_一無_レ值、遂許_二之_一。後一日、七人果至。各挈_二彩繪_一、將_二入_一殿宇、且爲_二僧_一約_二曰_一、「從此去_二七日_一、慎

勿_レ啓_二吾_一之_二戶_一、亦不_レ勞_二賜_一食。(エ)蓋_二以_一畏_二風_一日、*侵_二鑠_一也。(b)當_二以_一泥_二*鋼_一之_二無_レ使_二有_一織隙、不_レ然、則不_レ能_二(オ)施_一其_二妙_一矣。」僧從_二其_一語、自_レ是凡_二六日_一、*闕_二無_一有_レ聞。僧相語_二曰_一、「此必怪也。當_二不_一宜_二果_一其_二約_一。」遂相_二與_一發_二其_一封_二戶_一既啓、有_二七_一*鴿_二翩_一望_二空_一飛去。其殿中綵繪、儼_二在_一四隅、惟_二西北_一壁未_レ盡_二飾_一焉。後畫工來_二見_一之、大驚_二曰_一、「眞神妙之筆也。」(c)於是莫敢_二繼_一其_二色_一者。

(張讀「宣室志」)

*巧_二音は「お」、壁をぬる_一意。侵_二鑠_一は「おかす」「そこなう」意。「鑠」は「とかす」意。鋼_二音は「こ」、「ふさぐ」「ぬりこめる」意。闕_二音は「けき」、ひっそりとして静かな様子。鴿_二「鳩」に同じ。

問一 傍線部ア・エの訓み方を、送り仮名も含めて記せ。現代仮名遣いでよい。

問二 傍線部イ・ウ・オの意味を、分かりやすく説明せよ。

問三 傍線部aを、すべて平仮名で書き下せ。現代仮名遣いでよい。

問四 傍線部bを訳せ。

問五 傍線部(c)に返り点をつけよ。(送り仮名は不要。)

問六 傍線部(7)「不_レ負_ニ我所_レ見」を訳せ。

問七 白猿は「今日技倆、如_レ出_ニ別手_ニ」と言っているが、何故そうなのか。また、白猿は芝居を如何に演ずべきだと考えているのか。二百字以内で記せ。